

経口投与による α リポ酸

『 α リポ酸は経口摂取可能な抗酸化剤です。』

① 投与量

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 抗酸化作用のみであれば | 20~50mg/日 |
| 2. 糖尿病性神経障害 | 600~1200mg/日 |
| 3. がん治療として | 300~600mg/日 |
| 4. 抗がん剤による神経障害の治療 | 600mg/日 |

② 投与方法

食事1~2時間前の服用が良い。
(食後の服用は α リポ酸の吸収を低下させる。)

③ R体とS体

1. 体内で生成される α リポ酸はR体のみでS体やラセミ体と比較してR体の方が生物学的活性が高いとされている。
2. α リポ酸の抗がん作用で最も重要な作用である、ピルビン酸脱水素酵素を活性化する作用はR体は促進するが、S体は阻害する。
従って、がんの治療に α リポ酸を使用する場合にはR体のみの α リポ酸を経口摂取すべきである。

④ 副作用

1日1200mg以上の大量投与では副作用として吐気・嘔吐・腹痛・下痢・倦怠感・不眠がみられることがある。
また、血糖を低下させる作用があるので血糖降下剤を服用中は低血糖に注意することが必要である。

アレルギー反応としては発疹やかゆみが見られることことがある。

⑤ 血中動態

経口投与で93%が吸収され肝臓で分解されて30%が実際に血流に入る。

半減期は6～8時間である。血中濃度は30～60分でピークに達する。

1200mg以上の大量投与では次のような副作用に注意すること

- 低血糖
- 吐気・嘔吐
- 下痢
- 胃の不調・腹痛
- めまい
- 皮膚炎・発疹・かゆみ(アレルギー反応)
- 疲労・倦怠感
- 不眠症